

お客様紹介

日本地下石油備蓄株式会社 串木野事業所 様

(ISO14001:2015、ISO45001:2018認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

日本地下石油備蓄株式会社は、石油の安定供給の為1986年設立、串木野事業所(鹿児島県いちき串木野市)は、1994年に完成しました。2014年、ISO14001、OHSAS18001(その後ISO45001へ移行)を認証取得されました。菊間事業所(愛媛県今治市)も弊社でISO14001、ISO45001の認証を取得されています。

串木野国家石油備蓄基地では、地下岩盤内に空洞を設け、地下水圧等により貯蔵原油を封じ込める水封式地下岩盤タンク方式が採用されています。この方式は土地の有効利用、環境保全、安全性、経済性等に優れています。タンク幅:18m 高さ:22m 長さ:1,110m(35万kl) x 1ユニット、2,220m(70万kl) x 2ユニットで、約168万klの石油が備蓄されています。

審査では、「事業所の活動方針が、ミッション、ビジョン、バリューの思考導入で、体系化されている。あるべき姿と現状のギャップを課題とされ、所員フォーラムで周知されている。ストレスチェック分析は、働き甲斐(やりがい)の側面でも分析されている。」などが、強みとされました。



串木野国家石油備蓄基地(地下透視図)

2021年6月18日、1986年7月30日の事業所創業以来続く、労働無災害350万時間を達成されました。国のエネルギー安全保障の一翼を担う事業所の方々は、日々安全操業に努められています。基地は国有施設のため、基地内の一般見学は原則行われていませんが、基地建設の際に使用された作業用トンネルを利用した展示館があり、興味深い内容が公開されています。



消防訓練



地下岩盤タンク(左)と配管

<https://www.chikabi.co.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第33回(環境編)

「支援」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

規格の7章は「支援」で、マネジメントシステムを運用するのに必要な体制の整備の要求事項が規定されています。「資源(7.1)」については、主にインフラストラクチャーなどが該当し、提供することは経営者の責任ですが、適切に維持・管理することは組織の人々にも責任があります。「力量(7.2)」については、規格では重要な業務には、適切な力量のある人を担当させることを求めています。重要な業務としては「パフォーマンスに影響を与える業務」はISO9001でも特定されていますが、ISO14001では「順守義務を満たす組織の能力に影響を与える業務」も規定されています。法的要求事項の情報を収集する人、法律に基づいた運用を実施する人、順守評価をする人などが該当すると考えられます。特に順守評価をする人は、法的要求事項を理解した上で組織の活動の中で適切に管理されているかを判断しなければならないという、

かなり高度な力量が要求されていると考えられます。

力量を確保するための手段として、殆どの組織で教育・訓練が計画・実施されています。社員全員に対して一般的な「環境教育」を実施している場合もありますが、環境管理を担当する人に対しては、その業務に即した、専門的な力量確保が求められます。例えば、廃棄物について社内ルールに従って分別することは全社員に要求されるでしょうが、廃棄物の保管管理、処理の委託を担当する人には、法律に従った適切な管理ができることが求められます。その他、設備の運転、保守点検、環境の監視・測定などを担当する人などにも、それぞれの業務に応じた力量が求められます。

力量には、公的資格も含まれ、公害防止管理者、エネルギー管理士などの資格に加えて、作業主任者技能教習を修了していることなども力量になり得ます。組織の業種や規模に応じて、管理責任者を選任しなければならないこともあり、選任された人には、その役割を遂行する力量も求められます。

審査では、力量の不足を直接指摘することは難しいのですが、管理上の欠陥が力量に起因することもあり得ることに気付いていただきたいと思っています。力量の向上、伝承は組織の永遠の課題と言えるでしょう。